

まちづくり相談

「いつまでも活気があり、住み続けたいと思えるまちであるために、できることを考えていきたい」「いままで育んできた町並みをこどもたちに引き継いでいきたい」という思いを実現するためのお手伝いをします。相談内容や地域の状況に応じて、センター職員や専門家によるまちづくり活動の進め方等に関する助言を行っています。



京町家なんでも相談

「町家を改修したいんだけど、どのように進めたらいいのだろうか」「使っていない町家をどうにか活用できたらなあ」など、京町家の維持・継承に伴う様々な悩みや不安の解消に向けてのお手伝いをします。



専門的な内容については、大工、建築士、不動産事業者などの専門家による専門相談も行っています。

相談は、当センター窓口や電話、メールでも受け付けておりますので、お気軽にお問合せください。

平成 26 年度賛助会員募集中！

当センターでは、まちづくり活動の支援、京町家の保全・再生に向けた取組みなどの事業を展開しております。活動趣旨にご賛同いただける個人、団体、企業を問わず、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

- 特典 1 ニュースレター「京まち工房」(季刊・年 4 回)
- 特典 2 各種セミナー参加のご案内 (随時)
- 特典 3 当センターホームページへのバナー掲載 (団体会員)

会費振込方法

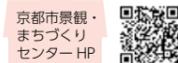
入会をご希望の方は当センターにお問合せいただくか、ホームページをご覧ください。 [景観・まちづくりセンター 賛助会員募集](#)

- 銀行振込 当センターより専用振込用紙をお送りします。
- クレジットカード決済 当センターホームページからお振込みいただけます。(VISA、MasterCard、JCB)
- 当センター窓口 現金のみ受付いたします。

年会費	
個人 1口	5,000 円
団体 1口	50,000 円
(平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日)	

京都市景観・まちづくりセンター

〒600-8127
京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町 83 番地の 1
(河原町五条下る東側) ひと・まち交流館 京都 地下 1 階
TEL : 075-354-8701 FAX : 075-354-8704
E-mail : machi.info@hitomachi-kyoto.jp
http://machi.hitomachi-kyoto.jp/



- 開館時間** 平日・土曜 9:00～21:30
日曜・祝日 9:00～17:00
- 休館日** 毎月第3火曜日(国民の祝日にあたるときは翌日)
年末年始(12月29日～1月4日)
- 交通** バス 市バス4・17・205号系統「河原町正面」下車
電車 京阪電車「清水五条」下車 徒歩8分
地下鉄烏丸線「五条」下車 徒歩10分



公益財団法人京都市景観・まちづくりセンターは環境負荷低減に努めています。

京まち工房 67

特集 P2-3

空き家活用啓発冊子『空き家の手帖』が完成しました！
～六原学区の取組～



「空き家の手帖」が完成しました！

～六原学区の取組～



現状・課題

六原ってどんなところ？

六原学区は、清水寺と鴨川の間に位置し、五条坂など陶芸を始めとする職人の街として知られる歴史の深い地域です。しかし、現在約3割といわれる高齢化率が課題で、高い空き家率やそれに伴う地域力の低下などの問題を引き起こしています。六原まちづくり委員会では、課題の根本である高齢化率を下げるためにはどうしたらよいかという観点から、「住んでいてよかった、これからも住み続けたいま

ち」を目指した住環境の整備へ向け活動しており、空き家の活用についても精力的に取り組んでいます。



取組みのきっかけ

なぜ冊子をつくらうと思ったの？

では、なぜ空き家が活用されないのか。その理由について、空き家所有者を対象にアンケート調査を行ったところ、「相続問題」、「誰が入居するかかわらず、貸すことで近隣に迷惑をかけたくない」、「一度貸すと、もう戻ってこないのではないか」、「改修費用の問題」、「どこに相談したらいいかわからない」等であることがわかりました。

そこで、まずは空き家所有者にまちづくり委員会の取組みを知ってもらうこと、そして所有者の疑問に答えるような冊子を作り、空き家の活用に関する疑問や不安を少しでも払拭してもらうことで、地域に相談してもらえる環境をつくっていきけるのではないかと考えました。

活動成功のポイント

どうやって完成までたどりついたの？

ポイント① いろいろな立場の人が参加しやすい環境をつくりました。

六原学区では、過去に京都市の支援による「地域連携型空き家流通促進事業」で派遣された学識者や建築家の方、不動産関係者、アーティスト支援団体のメンバーをまちづくり委員会に招き、外部の専門家にも継続的に参加していただける環境をつくりました。これまでに関わった人々のつながりを維持し、地域外へもネットワークを広げることで、専門家もつ人脈からも新たな出会いが生まれ、今回の冊子作成にあたって招いたプロのライターの方のようなさらなる人材開拓につながりました。

ポイント② 多様な機関・団体の支援を活用しました。

現在京都市をはじめ、多くの機関・団体が、地域の課題を解決する活動に対して支援する制度を用意しています。六原学区では、景観・まちづくりセンターなどのまちづくり活動を支援する専門機関等のアドバイスにも耳を傾け、積極的に支援制度を活用しました。これにより得られたのは資金的な支援だけではなく、支援事業に位置づけられたことで助成機関からも、強力な広報支援を得られたことは大きく、さまざまな機関等の協力を仰ぐことで、地域の活動をより広く発信することができました。

少人数だけで効率よく事業を進めることもできるけれど、できるだけ多くの人に関わってもらって冊子の中身を充実させていきました。本の厚み以上に制作に携わった人の思いを乗せることで、皆が「自分がつくった」と実感できるようにしました。

六原自治連合会 事務局長
六原まちづくり委員会 委員長
すがたに ゆきひろ
菅谷 幸弘さん



空き家活用啓発冊子「空き家の手帖」ができるまで

「東山区まちづくり支援事業」へ申請！

平成24年度に決定していた「啓発冊子の作成」という目標達成のため、「東山区まちづくり支援事業」へ申請することを決定。区役所の方に申請書の書き方など丁寧に説明していただきながら、無事申請しました。そして審査の結果、助成をしていただくことになりました。

8月～2月(期間:6か月) 地域住民と専門家による、冊子内容の検討会を計8回開催！

「捨てられず、親しみが持て、だれでもわかる読みやすい冊子」というコンセプトのもと、内容だけでなく文字の大きさに至るまで、専門家の方も交えて検討していききました。学識者には空き家が及ぼす地域への影響について、建築家の方には建物の改修方法や活用のノウハウを、不動産関係の方には相続に関する専門知識について教えていただきました。こうした専門性の高い内容を、読み物としてできるだけわかりやすくするため、専門家から新たに紹介していただいたプロのライターにも制作に加わっていただくなど、若い力を積極的に取り入れていきました。

空き家活用事例の取材を計4回敢行！

冊子掲載のために行った取材には地域の人々も参加し、今後の空き家のあり方について、改めて考える機会になりました。



12月25日 京ことば翻訳ワークショップを開催！

議論を重ねるうち、シナリオの語り口を京ことばで表現するアイデアが生まれました。そこで、民生児童委員の方々の協力を得て、正しい京ことばの表現をチェックしてもらい、地域の人々が参加できる機会をつくりながら、冊子の内容を充実させていきました。



3月19日「六原住まいの応援談」冊子をお披露目！

半年にわたり試行錯誤を重ねてつくりあげた「空き家の手帖」がついに完成！六原まちづくり委員会では、3月の「六原住まいの応援談」にて、冊子のお披露目会を行いました。六原学区内から多数の参加があったのはもちろん、地域外からも関心を持って来ていただき、地域の課題解決に向けた取組みを住民に広く知ってもらうことができました。



3月30日「空き家の手帖」完成記念制作ふりかえりトーク&まちあるきイベント開催！

さらに、冊子制作に専門家として関わったアーティスト支援団体が、同じく制作に関わったライター、建築家等をゲストに招き、制作ふりかえりトーク&空き家改修事例を巡る六原まちあるきイベントを行いました。彼らの幅広いネットワークや広報力により、地域から多くの参加者が集まり、地域の取組みをより広く発信することができました。



六原まちづくり委員会では、その他さまざまな活動を行っています

「六原住まいの応援談」の開催(年3回程度)

住まいや相続に関するセミナーを主催しています。
(平成25年度テーマ)
・5/30: 相続/耐震改修
・11/16: 認知症/青年後見
・3/19: 空き家対策

六原まちづくり委員会 NEWSの発行

まちづくり委員会の取組みをお知らせするニュースを各戸に配布しています。



無料相談会(月1回開催)

相続等のご相談にも定期的に応じています。



冊子ができただけで、新聞等さまざまな媒体に取り上げられるなど、多くの人に六原学区の取組みを知っていただくきっかけとなりました。

お気軽にご相談ください！

- 空き家対策について 京都市都市計画局まち再生・創造推進室 : ☎075-222-3503
- すまいのよろず相談・耐震改修について 京(みやこ)安心すまいセンター : ☎075-744-1670
- 地域まちづくり、京町家の保存・改修について 公益財団法人京都市景観・まちづくりセンター : ☎075-354-8701

先斗町の取組み紹介

このまちのために、できること

企画展示：先斗町の記録と記憶、そして思い出【平成26年5月25日(日)～31日(土)】
 シンポジウム：花街・先斗町の町並みと、これからについて考える【平成26年5月29日(木)】
 会場：元立誠小学校

先斗町まちづくり協議会では、「いまよりも悪くしない」をまちづくりの目標にして、平成23年頃から屋外広告物(看板)、路上喫煙、ゴミ出しなどに関して町式目をつくり運用してきました。こうした取組みは成果をあげつつあります。

今回の企画展示とシンポジウムは、先斗町のより良い姿を求めて、歴史を振り返りながら「先斗町らしさ」をまちの人々で考え、共有するために開催されました。



企画展示の開催を3週間後に控えた5月の連休明け、準備にお忙しい先斗町まちづくり協議会の神戸 啓さんに、意気込みを伺いました。

先斗町まちづくり協議会 副会長・事務局長
 かんべ ありから
 神戸 啓さん



Q 今回のシンポジウムと企画展示をやると思った時期ときっかけは何でしたか。

去年の夏の終わりごろのことです。今回展示する先斗町の古写真や古地図の下調査については、実は、去年の5-6月の段階でやっていたことなんです。終着点をどうするか、調べたことを協議会だけで取めておくのももったいないな、と考えたときに、シンポジウムと企画展示の開催を決めました。わかってきたことをみんなで共有して、まちの人が試行錯誤して表現していくということは、今後の先斗町のまちづくりにつながっていくのではないかと思います。

Q 「先斗町の歴史」がメインテーマでしたが、歴史が重要だと考える理由を教えてください。

京町家の定義はどんどん焼け(※)以降、昭和25年までに伝統工法でつくられた建物ということになっているようです。だから、今、京町家と評価されているものはどんどん焼け以降につくられたものが多い。先斗町はどんどん焼けで焼けなかったようです。だから、普通言われている京町家と違うつくりの建物が先斗町には多いんです。でも、京町家の一般的定義から外れてしまうので、それら以前のもの(江戸期の軒札が残るようなもの)であっても、評価がされなかったりします。どんどん焼け以降につくられた京町家は、先斗町の町家の様式を参考にした可能性もあるのです。実は、今言ったことはまちの人にも知らないことが多い。自分のところの建物の価値を知らないということです。だから、先斗町の歴史は古いんだ、ということを知って自信を持ってもらいたいですね。先斗町に限らず、自分たちの町がどのようにできあがったのかをみんなで共有することは、まちづくりをするうえで重要だと思っています。

※どんどん焼け…元治元年(1864年)に起きた火災。手の施しようがないほど勢いよく燃えたさまから「どんどん焼け」と言われる。

Q 取組みを通じて実感したことは何ですか。

江戸時代の人たちはヒマだったと思うんです。インターネットもコンビニも携帯電話もない。ヒマな時間を、人々は会話や芸事、「普請」というまちのための活動をしていたんでしょう。いまでもこういう「ヒマを楽しむ」というものが、先斗町にはあるかもしれない、と思いました。なかでも重要なのは「普請」という考え方です。みんながまちを豊かにするために、少しずつ仕事以外の時間をまちのために提供するということです。企画展示とシンポジウムのために、みんな本当に情熱を燃やしています。本業があるのに(笑)。そこに面白さと大切さがある。



当日に向けて慌しく準備の日々は過ぎていきました。



京都の五花街の一つ、先斗町。
 先斗町では、まちの歴史を振り返り、将来を考える企画展示とシンポジウム「このまちのために、できること」が開催されました。まちの人の熱意が、来場者600名を超える大きなイベントの開催を実現させました。準備から開催まで奔走した先斗町の人々取材しました。



企画展示



昭和29年制作の火災保険特殊地図を見ながら先斗町にまつわる思い出話に花が咲く



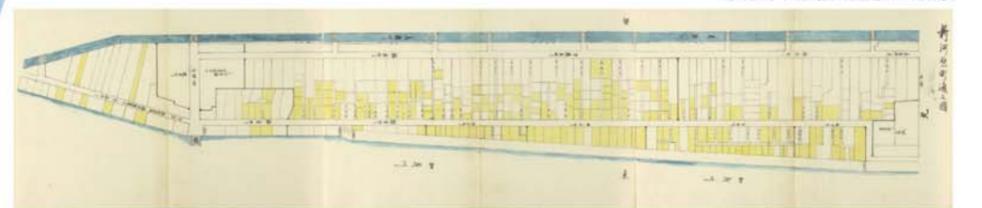
古写真の説明をする神戸さん



学生さんたちにギャラリートークをする植南実行委員長

開催期間中には多くの人が会場の元立誠小学校に足を運んでくれました。

京都府下遊廊由緒附図の展示



シンポジウム

先斗町町並み調査報告

報告：京都市都市計画局都市景観部景観政策課

景観政策課によって平成25年度に実施された先斗町の町並みや建物に関する現地調査結果が報告されました。花街・先斗町の歴史の変遷の紹介と調査結果をもとにした、先斗町らしい建物と町並みが提案されました。



パネルディスカッション

多くの来場者で熱気に包まれた講堂。建築の歴史、花街の景観、まちづくりの専門家の視点から、「先斗町らしさ」についての議論が行われました。来場者からは、新しいものも取り入れ伝統を刷新することや、地域を支えている無形の暮らしの文化を評価することが大切だという意見が出ました。



先斗町まちづくり協議会理事/シンポジウム実行委員会委員長
 すきやき いろは 植南 草一郎さん

シンポジウムを無事終えてホッとしている実行委員長に、インタビューをしました。

Q シンポジウムを終えての感想をお願いします。

今日来ていただいたパネリストは建築分野の先生でしたが、ハード面の話に留まらなかったことが興味深かったです。なかでも「目に見えないもの」に対する大切さが議論になりました。先斗町は日常生活とは切り離された異次元な世界でなければならないのではないか、との問いかけです。そのためには昔から継承されてきた歴史的な事物の模倣だけに留まらず、「ほんもの」の精神を大切にしたい。「先斗町らしさ」を目指さなければならない、そんな宿題もいただきました。

そんな話をまちの人がどう受け止めてくれたのかも気になっています。今日お集まりいただいた皆さんはもちろんのこと、それ以外の方々にも今日の話がじわじわと浸透していくことを期待しています。

Q まちの人に気づかされたことはありましたか。

古写真のコーナーがありましたが、僕と同じくらいの世代の人でも「なつかしい印象がありますね」と言ってくれるんです。さまざま時代のそれぞれの良さがある一方で、世代を越えた懐かしさみたいなものもあるのだろうな、と感じました。

●京町家再生事例●

平成 25 年度 京町家まちづくりファンド改修助成事業

「町家を次世代に引き継ぐために」

友田邸

今回は、ご主人の生家である大宮通に面した町家を再生し、町家暮らしを始められた友田家のご紹介です。生活の拠点を関東に移されていたご夫妻が、生まれ育った町家を次の世代に引き継ぎたいという強い思いを原動力として町家とその暮らしを再生させるまでと、これからの町家での暮らしの展望をお伺いしました。



町家再生のきっかけ

生家である築 100 年以上の実家について、7 年前に父が亡くなった後、私の退職後の生活設計と重ね、大事な先祖の遺産を維持していかなばと本格的な修理を考えていました。40 数年京都を離れて住んでいた私には、京都の大工さんとの接点が少なく、たまたま東京で開催された『京あるき in 東京』のセミナーで京都市景観・まちづくりセンターさんのお話を伺い、京町家作事組の方々に工事の相談をする機会を得ました。作事組の方に現地を見てもらったところ、「まだまだ使える」と言われたことで今回の改修への決心がつけました。その後大工さん、建築士等に現地を詳細に見てもらい、打合せを重ね、改修の設計図が出来上がっていきました。

もともと次の世代にこの家を引き継ぎたいと考えていたところに、息子がこの町家を大切に思い、住み続けていくべきだと言ったことが、改修を考える大きなきっかけとなりました。私以上にこの古い町家に大きな価値を見出している息子ならば、家をさらに次の世代に引き継ぐために、適切に維持管理してくれると思っています。

改修の経緯

これまで、応急的な修理しか行っておらず、既に雨漏りで柱が傷んでしまうなどの不具合が出ていました。専門家のアドバイスに

より、家を永く維持するためには根本的な改修が必要で、まず大屋根の改修と、家の傾きの補正は必須であることがわかりました。

実際に住むことを考えていくにつれて、大屋根や柱だけではなく、手を入れたい箇所がどんどん出てきました。将来的には二世帯にすることも視野に入れながら、生活動線や水回りについても計画していきました。

また、町家の内部だけでなく、外観も昔ながらの景観を守るものにし、玄関二上りの虫籠窓等を復元しました。

息子は、トオリニワを土間のまま残したいと言いましたが、上がり降りの不便や冬の寒さを考えると、床を上げることは譲れませんでした。台所は今回の改修で最も劇的に変わった箇所ですが、将来土間を復元することは可能ですし、幸い床を上げることに反対していた息子も納得してくれたようです。

住んでみてわかった町家の良さ

改修する前から、藤むしろを敷いた夏の座敷の心地良さ、都会ならではの立地の便利さ等については知っていましたが、住んでみて改めて町家の良さがわかりました。魚を焼いたときの煙が、換気扇もないのに、表の戸と火袋の窓を開けただけで消えたり、古い着物に全くカビが発生していないのを見たりすると、町家の通風の良さを実感します。

改修前は、表の開口部を塞ぐように棚が置かれていたため、室内はとても暗かったのですが、棚を取り払うと十分な光が入って



るようになりました。格子越しに通りを歩く人々の気配を感じることができるのも、町家ならではの良さだと思います。ただ、交通量の多い通りに面しているため、防音のためにもガラス戸は外さず、そのまま使用しています。台所に立って上を見上げると、側壁の柱がすっきりと立っているのが見えるのもお気に入りです。

改修前には、「家を潰さないで」「駐車場にだけはしないで」というご近所の声もあり、町家を改修したことを一番喜んでくださったのは、ご近所の方かもしれません。「きれいになった」とお声を掛けてくださいます。

これからの楽しみ方

京都は、現在のもう一つの住まいのある横浜と、親戚がいる九州のちょうど中間地点にあたります。祇園祭や観光で京都に来た親戚や友人に気軽にこの家を利用してもらえるよう、お客様の動線を考慮して、2 階にも水回りを設け、階段を表側に移動させました。また、この家を起点に夫婦で各地を旅行するのも今後の楽しみです。

しばらくは、横浜と京都を行き来することになると思いますが、今後の暮らしについてはゆっくりと考えていきたいと思っています。一年の半分を京都で過ごす、あるいは町家を別荘のように使う等、体調やライフスタイルを考慮しながら柔軟に考えていきたいと思っています。



改修後の 1 階外観



改修後のトオリニワ上部

京町家まちづくりファンド



京町家まちづくりファンドは、京都の暮らしの文化、空間の文化、まちづくりの文化を象徴する京町家の再生を支援しています。このファンドは、京町家の保全・再生を推進するための基金として平成 17 年に設立し、京町家を愛する皆様のご寄附をいただきながら運営しています。京都の文化である京町家を未来につなぐため、皆様の温かいご支援をお願いします。

ご寄附の方法 一口 1,000 円から受付しております。

金融機関へのお振込

当センターより専用振込用紙をお送りします。

- 三菱東京 UFJ 銀行 京都支店
- 京都中央信用金庫 本店
- 京都銀行 本店

※専用振込用紙にて、上記金融機関の各本店又は支店からお振込の場合は、振り込み手数料が不要となります。

クレジットカード決済

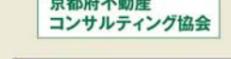
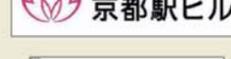
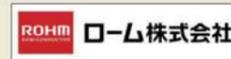
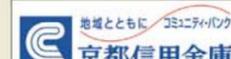
京町家まちづくりファンド専用ホームページからご寄附いただけます。(VISA、MasterCard、JCB)

京町家まちづくりファンド 検索

当センター窓口

現金のみ受付いたします。

私たちは京都のまちづくりを応援しています。



(順不同)

景観・まちづくり大学

景観・まちづくり大学は、京都のまちづくりに関心のある人が集い、語り、交流する場です。共に学び、共に育つ…。元気なまちへの一歩、あなたから始めませんか。

京のまちづくり史セミナー

都市史の中でも、特に住民の自立した活動としてのまちづくりの変遷を学ぶ講座です。

2014年2月26日(水) 京都にみる近代建築の保存と活用

講師：笠原 一人氏 (京都工芸繊維大学大学院助教)

ヨーロッパでは、オリジナルの建物の①材料、②デザイン、③技術、④場所が、加えて近代以降は、⑤設計意図や⑥空間などがどれだけ残されているかで、いかに“本物”が残されているかを測る「オーセンティシティ」という概念を基に建築の保存がされてきたそうです。この指標に照らし合わせて日本に現存する近代建築について解説いただきました。日本では近代建築の保存や改修の際にオーセンティシティが守られていない例が多く見られ、古来より日本の

伝統建築に受け継がれている約100～200年周期で建物を解体し、修理する歴史の影響を想像するなど、西洋との文化の違いも含め「何をもちて保存なのか」を考える機会となりました。また日本では、基本的に文化財に指定するには所有者の同意が必要であることが、特に都市部に建つ近代建築が守られない一因になっているという、ヨーロッパとの法律面での相違点もご紹介いただきました。



2014年3月23日(日) 京都小学校校舎の発展過程と学区

【会場】市民大学院 (文化政策・まちづくり大学校、旧成徳中学校)

講師：大場 修氏 (京都府立大学大学院教授)



明治元年に旧来の町会所(役場)を兼ねた小学校建営が決定した後、上下両京各33番組の町組(区)において64校が開校しました。そのうち少なくとも44校は新築でしたが、その校舎配置は町会所を中心に据え、教室はその付属施設としたものが一般的でした。その後、時代が進むにつれ校地拡張も行われていきましたが、その場合でも、粟田校のように、講堂(本館)を中心とした校舎配置を守るため、わざわざ講堂を移転させるほど、講堂

が京都小学校校舎の代表的な存在であり続けたことが配置の推移から読み取れると説明いただきました。一方で木造校舎の売却や校地移転も行われ、校舎が公家旧邸、旧京都藩邸、寺社として移築されたり、他校の校舎として再利用されるなど、京都独自の校舎変遷をたどりました。現在それらは公家殿舎等の遺構としても重要な意味を持つなど、その歴史は移築・転用の建築史ともいえるもので、学区による近代京都の市街地形成の変容がみえてくると解説いただきました。※昭和戦前のコンクリート校舎については、続編として開催予定です。



今後の開催予定(夏期)

京のまちづくり史セミナー

第3回 テーマ 京都復興の展開：明治期の首長は地域とどう向き合ったのか
日時 7月16日(水) 19:00～21:00

第4回 テーマ 近代京都と東山：生活行為がつくる景観から都市計画がつくる景観へ
日時 7月30日(水) 19:00～21:00

第5回 テーマ オランダに学ぶ近代建築の保存活用
日時 9月10日(水) 19:00～21:00

まちづくり実践塾

第1回 テーマ 地域の伝統行事とまちづくり～成逸学区の地蔵盆調査をもとに～
日時 7月25日(金) 19:00～21:00

第2回 テーマ 地域が学校をつくり、学校が地域をつくる：学区による学校運営
日時 8月1日(金) 19:00～21:00

第3回 テーマ 地域まちづくりからみた「学区」とは
日時 9月3日(水) 19:00～21:00

京町家再生セミナー

京町家の“最初の一歩”としての基本講座です。身近な存在としての京町家の姿を知り、再生の方法などを学びます。

2014年4月23日(水) 京町家と京のまちづくり —町家再生とは何か?—

講師：宗田 好史氏 (京都府立大学大学院教授)



数年前から「都心回帰」や「コンパクトシティ」という言葉が使われるようになり、都会で暮らすスタイルが見直されるようになりましたが、そのような中で今、京町家が大変注目されています。町家レストラン、町家ホテル、町家スタジオ等々、市内では“町家ブーム”が起きていますが、それらをすべて京町家再生というよいのでしょうか。本来の意味での京町家再生とは何か?京町家再生に係るこの20年間の経過を振り返り、「京町家の現代的意味」や「京町家を現代社会が必要とする訳」について、最近の京都市の都市政策も踏まえて、お話をいただきました。

【京町家の現代的意味】

- ①自然素材で造られており、環境に優しい。
- ②季節ごとの設えがあり、自然との調和が美しい。
- ③住まいにも店や工房にも幅広く用いられ、文化的アイデンティティがある。
- ④美しい町並み、都市景観を創出している。

【京町家を現代社会が必要とする訳】

- ①京都らしく、家族の伝統を守る暮らしがあるため、家族の絆が切れない。
- ②その町並みは町中に暮らす知恵の結集でもあるため、お町内はその和を維持し続ける。
- ③ユニークで質の高いサービスを提供する新ビジネスを創り出す。
- ④京都という都市を脱工業化時代の「創造都市」に導く。



2014年5月10日(土) 【共催企画】春秋・京町家見学会 (春の回) 生谷家住宅主屋

見学の様子



【会場】生谷家住宅主屋 【共催】町家をトーク運営委員会
【後援】一般社団法人 関西インテリアプランナー協会

講師：長瀬 博一氏 (有限会社長瀬建築研究所 代表取締役) (左)
講師：小埜 雅章氏 (京都庭園室 代表) (右)

セミナーでは、実際に「生谷家住宅主屋」改修の設計監理を担当された長瀬氏と、お庭を造られた小埜氏にお話をいただきました。長瀬氏からは、階段の増設、展示室の天井高の問題の解消、柱や壁などの様々な箇所の補強・補修、伝統的な意匠の復元等の具体的な改修の手法について解説していただきました。小埜氏からは、地質に合った植物の選定等、生谷家住宅の特性と伝統に則った作庭について解説していただきました。講演後は両氏の解説を聞きながら

建物内を見学し、設えや調度品等を鑑賞。参加者は、両氏の解説に熱心に耳を傾け、両氏には参加者からの質問に丁寧に答えられました。



生谷家住宅外観



【申し込み方法】

- ①セミナー名 ②開催日
- ③氏名(ふりがな) ④電話番号

以上を明記の上、電話・FAX・E-mailにて京都市景観・まちづくりセンターまでお申し込みください。

京町家再生セミナー

第5回 テーマ 京町家に移り住んで～伊藤邸の夏のしつらえ～
日時 7月26日(土) 14:00～16:00

第6回 テーマ 町家の税金のこと教えます!
日時 8月21日(木) 19:00～21:00

第7回 テーマ 京町家と相続
日時 8月27日(水) 19:00～21:00

第8回 テーマ 町家探しの心得イロハ
日時 9月13日(土) 14:00～16:00

第9回 テーマ 京町家の売買・賃貸契約と注意点
日時 9月24日(水) 18:30～20:30

展示施設

「京のまちかど」 案内ボランティアさん紹介



Vol.1
笠岡 英次さん



このコーナーでは、景観・まちづくりセンター1階にある展示施設「京のまちかど」で、展示案内をされているボランティアさんをインタビューにより紹介します。

今回は、平成16年度から展示ボランティアを務めていただき10年目となる笠岡英次さんです。

Q 笠岡さんはどちらのご出身ですか？

中京区（現在の朱二学区）生まれです。これまでずっと京都で暮らしています。

Q 展示ボランティアを始められたきっかけは？

これまで、知床の自然保護運動（※）や京都府文化財保護指導委員などの社会活動をしてきました。この経験を生かして、大好きな京都の自然景観、町並みの素晴らしさを伝えていきたいと思っていたところ、たまたま広報誌で展示ボランティア募集の記事を見つけて応募しました。

Q 笠岡さんが思う、京都の魅力はどんなところですか？

町衆の力だと思います。応仁の乱以降、焼け野原となった京都を復活させたのは町衆の力で成したことです。祇園祭も町衆が復活させました。「城下町」ではなく「民衆の町」。

これが京都の魅力だと思います。

Q 展示案内を通して、どのようなことを伝えていきたいですか？

これまでの経験を通して感じたことは、自然景観と文化財は両立するということです。京都の美しい町並みを作り出している歴史的な文化財や京町家も、自然景観が守られているからこそ美しく感じるのだと思います。京都は、三山（東・北・西）が市内のどこからでも見える町です。これは町衆の努力によって、現在まで大切に受け継がれてきました。この素晴らしい景観を将来に残していけるよう、私なりに伝えていきたいと思っています。



（※）「しれとこ100平方メートル運動推進」関西支部の世話人代表をおよそ30年務められ、同運動のPR活動などに取り組まれました。その功績が認められ、平成20年に「斜里町特別貢献表彰」を受賞されました。

退任のご挨拶



公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター
前理事長 三村 浩史

この度、6月6日をもちまして約7年間にわたった理事長の職を退任いたしました。当センターは平成9年に設立し、やがて20年目を迎えようとしています。この間、まちづくり基本調査と情報の収集・提供、相談や専門家派遣、京都という都市を多様に構成する地域ごとのまちづくり支援、大学・学生諸君との連携、景観整備機構として行政との連携、交流セミナーや市民講座、町家再生モデル事業、歴史都市会議・ワールド・モノユメント財団(WMF)・各地各国からの訪問者との交流プログラムなどを展開してきました。十数名のスタッフで担当する当センターの活動の進展が認められるとすると、それは上記の皆様方から寄せられた熱いご関心とご支援の賜物といえましょう。私自身も多くを学ばせていただきました。スタッフにとっても、まちづくり研修の得難い機会となってきました。

京都の景観や町並み、生活・産業文化、土地利用の特色を見直し、いかに持続発展させるか、また新しい定住や起業希望者をどう受け入れるか、まちづくり経営力が問われています。これらの動向を踏まえつつ、新しい理事長を先頭に役職員一丸となって取り組んでいきたいと存じます。

私も、まちセンOB会員として、まちづくりの学徒として応援していくつもりです。

皆様ありがとうございました。

就任のご挨拶



公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター
理事長 青山 吉隆

三村浩史前理事長は、7年間にわたって京都市景観・まちづくりセンターの発展に貢献されてきました。これまでのご業績に心から感謝いたします。今後も適宜ご指導を賜れば幸いです。

三村氏のご退任にともない、6月6日の理事会において、私が当センターの5代目の理事長に選任されました。歴代の理事長の足跡を受け継ぎ、さらに私なりにこれまでの京都市における各種審議会などの経験を活かして、当センターを通じて京都市に貢献する所存です。

当センターの主目的は、景観形成と市民主体のまちづくりの推進にあります。この目的を達成するためにこれまで多くの事業を行ってきています。さらに少子高齢化、人口減少などの時代背景の中では、都市づくりという広い視野から事業を進めていくことも必要になるでしょう。これらの事業を円滑に推進していくためには、情報を共有し、市民との協働や市役所行政とのパートナーシップの充実強化も重要です。また当センターへの市民の理解と関心を高めていくために、積極的な広報活動も大切です。

当センターは平成29年に設立20周年を迎えます。この節目に相応しい組織へと発展するために、微力を尽くしたいと思っております。



図書コーナーからのお知らせ

施設紹介

「ひと・まち交流館 京都」には、地下1階に図書コーナーが設置されています。市民活動・福祉ボランティア・まちづくり・高齢者福祉の各分野に関係する図書・視聴覚資料・雑誌・地図等を書架に分類して、一般に開放しています。

また、全国紙の閲覧場所があり、過去1年間の朝夕刊の閲覧も可能です。さらに、お子さん向けの絵本も多数揃え、必要な図書をお探しするお手伝いもしています。お気軽にお立ち寄りください。

開館時間
月曜～土曜：10:00～20:30
日曜・祝日：10:00～17:00

休館日
毎月第3火曜日
(国民の祝日にあたるときは翌日)
年末年始(12月29日～1月4日)

お問い合わせ
TEL：075-354-8703



図書スタッフのおススメ本 vol.1

「祭りのしつらい」

京都を中心に全国の祭りが紹介され、町衆の生活様式、伝統文化、宗教や信仰、町並みやまちづくりとの関わりなど、多様な面から考察されています。写真や図も豊富に引用されていて、「後の祭り」や「関の山」などの語源となった祇園祭と各地の祭りを対比することも楽しい教養書となっています。



ホームページから
図書を検索できます。



ひと・まち交流館 図書コーナー 検索

スタッフのつぶやき

高校の頃から映画にはまり、京都での大学時代には、昼は映画館、夜は大学の製図室という生活を送っていました。祇園会館で見たジョン・フォード監督作品の3本立て、大宮で見た50年代ミュージカル、京都という土地柄、大学の自主上映会にも足を伸ばし、西部講堂では20年代ロシア映画など、国内外の古い映画やマイナーな国の映画に夢中でした。映画館の窮屈で硬い椅子や自主上映会の凍てつく教室という環境の中でも、どの位置から



スクリーンを見るのが一番楽で字幕が読みやすいか、背の高い人が前に座りにくいかなど特殊な勘を働かせつつ、嬉々として映画を見に行っていました。

京都での生活に時代も国境も越えた文化や風景の彩りがプラスされ、また、主人公や脇役達の人生から学んだことは、私にとって、今に繋がる貴重な財産になっています。

*最近のおすすめ映画!「ハンナ・アーレント」 スタッフ M.T